役員エッセイ

大通公園を望む窓辺から

ジャズ喫茶

副会長　佐古（さこ）　和廣（かずひろ）

私の趣味の１つが「ジャズ」である。もっぱら聴く方専門であるが。大学１年の時、大学紛争でほぼ１年間授業がなかった。昭和45年１月５日の機動隊による北大本部解放後、約２か月半の集中講義で２年に進級した。スト中は毎日のように本を１冊もってジャズ喫茶に行っていた。授業があったらあれほど本を読む機会もなかったかと思うと、貴重な時間であった。当時はLP １枚が今と変わらず２千円前後で、学生の身分ではなかなか買えないのでジャズ喫茶で聴くしかなかった。暇な学生はコーヒー１杯で２時間も３時間も粘るので、店主はセシル・テイラーやオーネット・コールマンなどの前衛ジャズ（フリージャズ）をかけ追い出していた。当時、狸小路５丁目周辺にジャズ喫茶が４～５軒あった。現在も続いている店があり、時々顔を出している。学会で出張の時はその地のジャズ喫茶を調べ、時間を見つけては訪ねるのが楽しみであった。今はグーグルマップがあり探すのに苦労はないが、昔は結構大変であった。

４年ほど前、根室で地域医療構想調整会議があり、コロナ前でZoom会議などもなく、名寄からだと東京に行くより遠いのだが出席することにした。アドバイザーという責任感からと言いたいところであるが、根室には「サテンドール」というジャズ喫茶があるので不純な動機も働いた。しかし、行ってみると当日（木曜日）は定休日だった。「神様はお見通し」という言葉が頭をよぎった。サテンドールも店主が亡くなり、今は千葉にいた弟さんが継いでいる。全国のジャズ喫茶の店主の多くは高齢で、後継者がいなく閉店した店も多い。ジャズ喫茶は酒を飲んでも安く、趣味でやっているような人が多いのでなかなか後継者が見つからないのかなと想像している。是非、ジャズ喫茶文化を残してほしいものである。

デジタルトランスフォーメーション

理事　稲葉（いなば）　秀一（しゅういち）

何気なく読んでいた新聞の紙面で、「超DX料理賞」なる言葉に目が留まりました。一体何なのだろうと読んでみると、環境と社会に配慮しながら持続可能で発展的な変革を志向する美食店への表彰で、受賞した店は、ジビエ（野生鳥獣の肉）に関する取り組みが評価されたとのことです。要は狩猟・飼育から解体、加工、飲食サービスを一貫して手掛ける店で、肝心の味を含めた料理の出来栄えについては二の次のようです。一方、医療界では「医療DX」の言葉がいたるところで踊っていますし、国も脱炭素社会を目指すとの掛け声で冠にGXを付けた言葉（GX実行会議、GX投資、GX経済移行債等々）を使います。新聞の一面を覆うこれら横文字の略語、確かに語感の響きはいいですが、具体的な中身になるとさっぱり伝わってきません。

これらの考え方、取り組みの根底にあるのがSDGsです。これは、国連が掲げる持続可能な世界を実現するための開発目標ですが、17の目標と169の項目から成ります。現代社会の営みを構成しているほぼ全ての項目が該当します。しかし、「SustainableとDevelopment Goals」という言葉自体に矛盾を感じますし、項目も相反することが含まれているようで、具体的な目標を達成するというよりは大きなスローガンに思えてなりません。そんな概念を錦の御旗にして、声高に重要性を口にして、一律に物事を進めようとする今の社会の空気に、一抹の不安を感じています。例えば地域医療をテーマにしても、誰しもが持続可能な医療の提供体制の充実に取り組んでいますが、医療資源の豊富な地域とそうでない地域では、具体的な方法となると様々だと思います。

先日ある職場から、懇親会の招待状がきました。末尾に、「職員はSDGsへの取り組みの一環として、ノーネクタイの軽装で参加させていただきます」と書いてあります。クールビズなら理解できますが、何がSDGsなのかとまたまた悩んでしまいました。